

◎ 指示があるまで開かないこと。

(平成 25 年 2 月 9 日 13 時 15 分 ~ 15 時 00 分)

## 注 意 事 項

1. 試験問題の数は 62 問で解答時間は正味 1 時間 45 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
  - (1) (例 1)、(例 2)の問題では a から e までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)では 1 つ、(例 2)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例 1)の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 2)の質問には 1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 1) 101 応招義務を規定しているのはどれか。

- a 刑法
- b 医療法
- c 医師法
- d 健康保険法
- e 地域保健法

(例 2) 102 医師法で医師の義務とされているのはどれか。2 つ選べ。

- a 守秘義務
- b 応招義務
- c 診療情報の提供
- d 医業従事地の届出
- e 医療提供時の適切な説明

(例 1)の正解は「c」であるから答案用紙の **(c)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
			↓		
101	(a)	(b)	●	(d)	(e)

答案用紙②の場合、

101	101
(a)	(a)
(b)	(b)
(c)	→ ●
(d)	(d)
(e)	(e)

(例 2)の正解は「b」と「d」であるから答案用紙の **(b)** と **(d)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
			↓		
102	(a)	●	(c)	●	(e)

答案用紙②の場合、

102	102
(a)	(a)
(b)	●
(c)	→ (c)
(d)	●
(e)	(e)

(2) (例3)では質問に適した選択肢を3つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例3)の質問には2つ以下又は4つ以上解答した場合は誤りとする。

(例3) 103 医師法に規定されているのはどれか。3つ選べ。

- a 医師の行政処分
- b 広告可能な診療科
- c 不正受験者の措置
- d へき地で勤務する義務
- e 臨床研修を受ける義務

(例3)の正解は「a」と「c」と「e」であるから答案用紙の **a** と **c** と **e** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、		答案用紙②の場合、	
103	<input checked="" type="radio"/> a <input checked="" type="radio"/> b <input checked="" type="radio"/> c <input type="radio"/> d <input type="radio"/> e	103	<input type="radio"/> a <input type="radio"/> 103
	↓	<input checked="" type="radio"/> b	<input checked="" type="radio"/> b
103	<input type="radio"/> a <input checked="" type="radio"/> b <input type="radio"/> c <input checked="" type="radio"/> d <input type="radio"/> e	<input checked="" type="radio"/> c →	<input type="radio"/> d
		<input checked="" type="radio"/> d	<input checked="" type="radio"/> d
		<input type="radio"/> e	<input type="radio"/> e

(3) 選択肢が6つ以上ある問題については質問に適した選択肢を1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例4)の質問には2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例4) 104 平成22年医師・歯科医師・薬剤師調査で人口10万人当たりの医師数が最も少ないのはどれか。

- a 北海道
- b 青森県
- c 茨城県
- d 埼玉県
- e 京都府
- f 和歌山県
- g 鳥取県
- h 徳島県
- i 佐賀県
- j 沖縄県

(例4)の正解は「d」であるから答案用紙の **(d)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、											答案用紙②の場合、																					
104	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	(j)	104	104	(a)	(a)	(b)	(b)	(c)	(c)	(d)	(d)	(e)	(e)	(f)	(f)	(g)	(g)	(h)	(h)	(i)	(i)	(j)	(j)

↓

→

(4) 計算問題については、□に囲まれた丸数字に入る適切な数値をそれぞれ1つ選び答案用紙に記入すること。なお、(例5)の質問には丸数字1つにつき2つ以上解答した場合は誤りとする。

(例5) 105 動脈血ガス分析(自発呼吸、room air)の結果を示す。

pH 7.41、PaCO<sub>2</sub> 41 Torr、PaO<sub>2</sub> 83 Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 25 mEq/l、

Na<sup>+</sup> 138 mEq/l、K<sup>+</sup> 3.2 mEq/l、Cl<sup>-</sup> 95 mEq/l。

アニオンギャップを求めよ。

解答：①□②□.③□ mEq/l

①	②	③
0	0	0
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6
7	7	7
8	8	8
9	9	9

(例5)の正解は「18.0」であるから①は答案用紙の①を②は⑧を③は①をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

①	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
105②	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
③	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

答案用紙②の場合、

	105		
①	②	③	
0	0	0	
1	1	1	
2	2	2	
3	3	3	
4	4	4	
5	5	5	
6	6	6	
7	7	7	
8	8	8	
9	9	9	





1 喫煙がリスクファクターとなりにくいのはどれか。

- a 喉頭癌
- b 食道癌
- c 肺 癌
- d 膀胱癌
- e 前立腺癌

2 消化管内視鏡像(別冊No. 1 ①～⑤)を別に示す。

内視鏡的粘膜下層剝離術の適応となるのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤



3 脳梗塞後に症状が安定し、意識レベル JCSⅢ-100 で人工呼吸器を装着している高齢患者が、長期療養する場所として最も適切なのはどれか。

- a 療養病床
- b 有料老人ホーム
- c グループホーム
- d 高度救命救急センター
- e 介護利用型軽費老人ホーム〈ケアハウス〉

4 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律〈感染症法〉に基づく入院勧告の対象でないのはどれか。

- a エボラ出血熱
- b 結核
- c コレラ
- d ジフテリア
- e 鳥インフルエンザ(H5N1)

5 災害医療について正しいのはどれか。

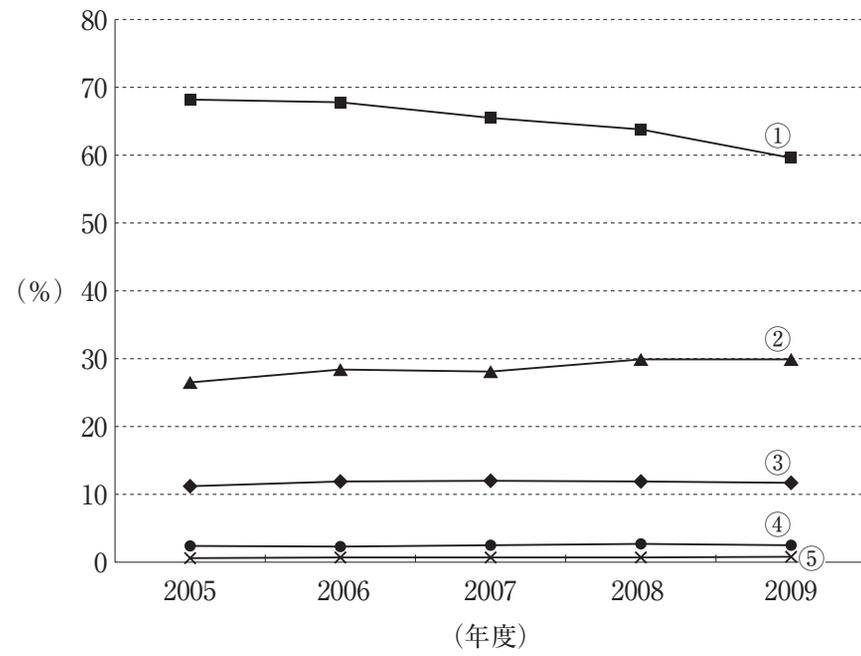
- a 災害拠点病院は市町村が指定する。
- b トリアージは医師でなくても行うことができる。
- c 災害現場では医師は救急救命士の指揮下に入る。
- d 防災体制を整備する地域的単位を二次医療圏と呼ぶ。
- e 災害医療とは災害派遣医療チーム〈DMAT〉の医療活動のことである。

6 ヘルスプロモーションで重要な活動はどれか。

- a 救急医療機関への搬送体制の整備
- b 行動変容による生活習慣の改善
- c 検診による疾病の早期発見
- d 予防接種による免疫の付与
- e 医療保険制度の導入

- 7 我が国の慢性透析患者の近年の傾向で正しいのはどれか。
- a 腎移植数は減少に転じた。
  - b 5年生存率は低下している。
  - c 死亡原因として感染症の比率が増加している。
  - d 糖尿病性腎症による透析導入数は減少している。
  - e 糖尿病患者と非糖尿病患者との間で5年生存率に差がない。
- 8 母子保健について正しいのはどれか。
- a 母子健康手帳は都道府県が交付する。
  - b 妊婦健康診査は保険診療の対象である。
  - c 産後休業は母子保健法で規定されている。
  - d 母性健康管理指導事項連絡カードは医師が発行する。
  - e 低体重児の届出の対象となるのは出生体重2,000g未満である。
- 9 人工呼吸器の設定で動脈血の二酸化炭素分圧を下げるのはどれか。
- a 換気回数を増やす。
  - b 一回換気量を減らす。
  - c 吸入酸素濃度を上げる。
  - d 最高気道内圧を下げる。
  - e 持続的気道陽圧法(CPAP)を適用する。

10 学校保健統計調査における小学生の主な疾病・異常被患率の推移を示す。



②はどれか。

ただし、①～⑤は a～e のいずれかに該当する。

- a 心電図異常
- b むし歯(う歯)
- c 鼻・副鼻腔疾患
- d (尿)蛋白検出の者
- e 裸眼視力 1.0 未満の者

11 環境基準に規定されている微小粒子状物質(PM<sub>2.5</sub>)について正しいのはどれか。

- a 大気中に浮遊している。
- b 消化管から血管内へ入る。
- c 粒子の規定は2.5 mg 以下である。
- d 工場からの排出が規制されている。
- e 主成分はディーゼル排気微粒子(DIEP)である。

12 正常皮膚の保湿に最も重要なのはどれか。

- a 角質層
- b 顆粒層
- c 有棘層
- d 基底層
- e 乳頭層

13 疾患と呼吸機能の異常との組合せで正しいのはどれか。

- a 肺気腫 ————— 残気量の減少
- b 肺線維症 ————— 肺コンプライアンスの低下
- c 肺動静脈瘻 ————— 肺拡散能の低下
- d 呼吸筋麻痺 ————— 換気血流不均等分布
- e 肺血栓塞栓症 ————— 1 秒率の低下

14 貪食能がないのはどれか。

- a 好中球
- b 樹状細胞
- c 単 球
- d マクロファージ
- e リンパ球

15 自我障害の訴えはどれか。

- a 「脳が溶けています」
- b 「自分の考えが抜き取られます」
- c 「皆が自分の悪口を言っています」
- d 「食事に変なものを入れられています」
- e 「何か恐ろしいことが起こりそうです」

16 栄養障害と病態・疾患の組合せで誤っているのはどれか。

- a ビタミン A 欠乏 ————— 夜尿症
- b ビタミン B<sub>1</sub> 欠乏 ————— Wernicke 脳症
- c ビタミン B<sub>12</sub> 欠乏 ————— 巨赤芽球性貧血
- d カルシウム欠乏 ————— 骨粗鬆症
- e 亜鉛欠乏 ————— 味覚障害

17 受精卵について正しいのはどれか。

- a 卵管間質部で受精する。
- b 受精時に第1成熟分裂が始まる。
- c 受精後6時間で細胞分裂が始まる。
- d 桑実胚期にhCGの分泌が始まる。
- e 胞胚期に着床する。

18 分娩中の異常とその対応の組合せで正しいのはどれか。

- a 横位 ————— 帝王切開
- b 骨盤位 ————— 吸引分娩
- c 肩甲難産 ————— 鉗子分娩
- d 低在横定位 ————— 会陰切開
- e 不正軸進入 ————— 陣痛促進

19 平成22年の我が国の65歳以上の人口の割合に最も近いのはどれか。

- a 5%
- b 15%
- c 25%
- d 35%
- e 45%

- 20 交感性眼炎の原因となるのはどれか。
- a 角膜異物
  - b 涙小管断裂
  - c 穿孔性眼外傷
  - d 眼窩吹き抜け骨折
  - e コンタクトレンズ眼症
- 21 乳幼児突然死症候群について正しいのはどれか。
- a 男児よりも女児に多い。
  - b 生後9～18か月に好発する。
  - c うつぶせ寝は予防法の一つである。
  - d 親の喫煙はリスクファクターである。
  - e 剖検で死亡原因が同定できることが多い。
- 22 顔面神経麻痺、耳介周囲の皮疹、めまい及び難聴を特徴とする疾患はどれか。
- a 耳下腺癌
  - b Bell 麻痺
  - c 小脳橋角部腫瘍
  - d 真珠腫性中耳炎
  - e Ramsay Hunt 症候群

23 水様下痢が持続し乏尿となった若年男性の検査結果を示す。血圧 86/52 mmHg。  
血液所見：Ht 54%。血液生化学所見：尿素窒素 64 mg/dl、クレアチニン 2.8  
mg/dl、尿酸 8.4 mg/dl、Na 138 mEq/l、K 4.1 mEq/l、Cl 101 mEq/l。

尿所見として予想されるのはどれか。

- a 尿比重 1.006
- b 尿蛋白 3+
- c 尿潜血 2+
- d 尿 Na 6 mEq/l
- e 尿 K 0 mEq/l

24 内診で診断できる臍帯異常はどれか。

- a 巻絡
- b 脱出
- c 過捻転
- d 真結節
- e 卵膜付着

25 言語と認知の発達の遅れが疑われる3歳の女児の検査として適切なものはどれか。

- a Rorschach テスト
- b 津守・稲毛式発達検査
- c 標準型失語症検査〈SLTA〉
- d Wechsler 児童用知能検査〈WISC-R-III〉
- e Mini-Mental State Examination〈MMSE〉

26 血管造影検査を行う際、動脈を穿刺し血液の逆流を確認した後、次に用いるのはどれか。

- a コイル
- b ステント
- c バルーン
- d カテーテル
- e ガイドワイヤ

27 栄養サポートチーム(NST)について誤っているのはどれか。

- a 医師の参加が必要である。
- b 外来患者が主な対象である。
- c 診療科を越えて栄養管理を行う。
- d 院内感染対策チームとも連携する。
- e 終末期癌患者の栄養管理にも関与する。

28 5%ブドウ糖液の輸液が適応となる病態はどれか。

- a 尿崩症
- b 低張性脱水
- c 等張性脱水
- d 急性副腎不全
- e ADH 分泌不適合症候群(SIADH)

29 術後呼吸不全に対して気管挿管を行った。加圧によって胸郭は動くが、聴診で呼吸音が弱いと感じられた。

気管チューブが気管内に挿入されているのを確認するのに最も適切な指標はどれか。

- a 血 圧
- b 脈拍数
- c 気道内圧
- d 中心静脈圧
- e 呼気終末二酸化炭素濃度(ETCO<sub>2</sub>)

30 呼吸リハビリテーションの適応とならないのはどれか。

- a 神経筋疾患
- b 気管支拡張症
- c 肺結核後遺症
- d 非代償性うっ血性心不全
- e 慢性閉塞性肺疾患(COPD)

31 結核対策について正しいのはどれか。

- a 根拠法は健康増進法である。
- b 乳幼児に対する予防接種は BCG である。
- c 全国の年間新規患者登録数は約 3,000 人である。
- d 潜在性結核感染症は法に基づく届出が不要である。
- e 結核登録票の管理を行うのは感染症指定医療機関である。

32 放射性同位元素で物理的半減期が1年以上なのはどれか。2つ選べ。

- a ヨウ素 131
- b ガリウム 67
- c セシウム 134
- d テクネチウム 99 m
- e ストロンチウム 90

33 厚生労働省の患者調査で平成14年と比較して平成20年に増加しているのはどれか。2つ選べ。

- a 気分障害の外来患者
- b てんかんの外来患者
- c 統合失調症の入院患者
- d Alzheimer型認知症の入院患者
- e 精神作用物質使用による精神および行動障害の入院患者

34 成人の解剖で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 左反回神経は鎖骨下動脈を反回する。
- b 食道裂孔部は上門歯列から約40cmの位置にある。
- c McBurney圧痛点は虫垂の先端の位置に一致する。
- d 直腸は下腸間膜動脈と内腸骨動脈の血流を受ける。
- e 内肛門括約筋は随意筋である。

35 胎児期から新生児期にかけての循環生理で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 臍帯静脈血は臍帯動脈血より酸素分圧が低い。
- b 静脈管の血流は左心房に流入する。
- c 卵円孔は胎児期には右→左シャントである。
- d 肺血管抵抗は出生後、急速に上昇する。
- e 動脈管は出生後、血中酸素分圧の上昇に反応して収縮する。

36 低ナトリウム血症がみられるのはどれか。2つ選べ。

- a 肝硬変症
- b Addison 病
- c 中枢性尿崩症
- d Cushing 症候群
- e 原発性アルドステロン症

37 生体機能検査について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a Holter 心電図は安静にして測定する。
- b レニン分泌刺激試験は立位のままで行う。
- c 排尿障害の患者では残尿量測定が必要である。
- d ポリソムノグラフィには脳波測定も含まれる。
- e 糖尿病の診断には経口グルコース負荷試験でのCペプチド測定が必要である。

38 前立腺癌の原発巣に対して根治的放射線治療として行われるのはどれか。2つ選べ。

- a 腔内照射
- b 組織内照射
- c 電子線治療
- d 強度変調放射線治療
- e 放射性同位元素内用療法

39 成人市中肺炎患者の入院適応の決定に有用な指標はどれか。3つ選べ。

- a 年 齢
- b 体 重
- c 身 長
- d 脱 水
- e 呼吸数

40 86歳の女性。発熱と意識障害のため搬入された。搬入時の意識レベルはJCSⅡ-10。体温38.3℃。脈拍112/分。血圧122/56 mmHg。呼吸数30/分。SpO<sub>2</sub>98%（マスク4l/分酸素投与下）。膿尿と末梢血白血球増多とを認め、尿路感染症に伴う敗血症と診断し緊急入院とした。高度の貧血に対して濃厚赤血球2単位を輸血するとともに、乳酸リンゲル液の急速輸液とセフェム系抗菌薬の点滴投与を行った。いったん状態は安定したが、翌日の深夜、モニターのアラームが鳴ったため看護師が病室に駆けつけたところ心肺停止状態であった。直ちに心肺蘇生法を行ったが、反応せず死亡した。

まず行うべき対応はどれか。

- a 遺族に状況を正確に説明する。
- b 遺族に医療過誤であると告げる。
- c 第三者医療事故調査機関に届け出る。
- d 医療事故として所轄の警察署に届け出る。
- e 死因を尿路感染症とした死亡診断書を発行する。

41 13歳の女子。呼吸困難を主訴に来院した。通学する中学校で体育大会に参加していた。午前11時ころ、次の競技に参加するため集合していたところ、目のチカチカ、流涙およびのどや鼻の痛みを自覚し、しばらくすると息苦しさを覚えたという。天気は晴れ。気温28℃、湿度55%。風は穏やかであった。意識は清明。体温36.8℃。脈拍72/分、整。血圧102/72 mmHg。呼吸数16/分。皮膚は軽度湿潤している。眼球結膜は充血している。咽頭には発赤がみられる。同様の症状を訴える生徒が他に数名いるという。

原因として最も考えられるのはどれか。

- a 花粉
- b 暑熱環境
- c 一酸化炭素
- d 心理的ストレス
- e 光化学オキシダント

42 32歳の女性。発熱と咳嗽とを主訴に来院した。以下に外来での医師と患者との会話を示す。

医師 「診断は風邪でいいと思います。それでは、お薬を出しておきますね」

患者 「あの、ちょっと相談したいことがあるのですが」

医師 「どうされたのですか」

患者 「実は、来月結婚することになっているのですが、遺伝病の身内がいるので、ちょっと心配なんです」

医師 「もう少し教えていただけますか」

患者 「はい。母方の祖父が大腸癌で亡くなっていて、母方の2人の叔父が家族性腺腫性ポリポーシスといわれて手術を受けているんです。この病気は、原因遺伝子を持っていれば、ほぼ全員が若いうちに発症するらしいのですが、将来私に子供ができた場合、遺伝する可能性はあるのでしょうか」

医師 「なるほど。そのことを心配されているのですね。ところで、ご両親は元気ですか」

患者 「はい。父と母は今年で70歳になりますが、元気で手術を受けたこともありません」

医師 「今度結婚されるお相手の方の家系で同じ病気の方はいらっしゃいますか」

患者 「いえ、おりません」

この患者の子供に家族性腺腫性ポリポーシスが発症する確率はどれか。

- a 男 0%、女 0%
- b 男 12.5%、女 12.5%
- c 男 25%、女 0%
- d 男 25%、女 25%
- e 男 50%、女 12.5%

43 79歳の女性。昨夜から発熱していると連絡があり主治医による往診となった。  
7年前に脳梗塞を発症し、1年前から無床診療所の医師が主治医として在宅診療を行っている。要介護度は4で、1日中ベッド上で過ごしている。排泄、清拭、食事などには全面的な介助が必要である。高齢の夫と2人暮らしで、訪問介護サービスを利用している。認知症はなく、夫にこれ以上介護の負担をかけたくないと話している。意識は清明。身長143 cm、体重38 kg。体温38.2℃。脈拍88/分、整。血圧88/52 mmHg。呼吸数24/分。SpO<sub>2</sub> 88% (room air)。口腔内と皮膚は乾燥し、右胸部に coarse crackles と rhonchi とを聴取する。

対応として適切なのはどれか。

- a ショートステイを紹介する。
- b 地域医療支援病院へ紹介する。
- c ケアプランの見直しを指示する。
- d 在宅のまま抗菌薬の経口投与を行う。
- e 特別養護老人ホームに緊急入所させる。

44 28歳の女性。下腹部痛を主訴に来院した。2日前から下腹部痛が持続しているが我慢できる程度であるという。最終月経は6週前。月経周期は30~40日、不整。腹部の触診で反跳痛と筋性防御とを認めない。

まず行うべき画像検査として適切なのはどれか。

- a 腹部CT
- b 腹部MRI
- c 腹部超音波検査
- d 下部消化管造影
- e 腹部エックス線撮影

45 62歳の男性。呼吸困難のため搬入された。3年前から右下肢の筋力低下が出現し、階段を昇りにくくなった。2年前から左下肢の筋力低下も出現し、歩行が困難になった。1年前から両手の筋力低下も出現し、3か月前から食事摂取量が減少している。本日の夕方から呼吸困難が出現したため、同居する家族が救急車を要請した。意識は清明。身長165 cm、体重55 kg。体温36.2℃。脈拍112/分、整。血圧150/100 mmHg。呼吸数22/分。神経学的診察では、構音障害、嚥下障害、四肢の筋力低下・筋萎縮および四肢腱反射亢進を認める。感覚障害と運動失調とを認めない。舌の写真(別冊No. 2)を別に示す。

この患者で予想される検査所見はどれか。

- a 脳波での三相波
- b 感覚神経伝導速度の低下
- c 針筋電図での高振幅電位
- d エドロホニウムテスト陽性
- e 聴性脳幹反応(ABR)第I波の消失

別 冊  
No. 2

46 57歳の男性。胸痛を主訴に来院した。2か月前から階段を昇るときに前胸部痛が出現し、2～3分の安静で消失していた。これまで心疾患を指摘されたことはない。脈拍72/分、整。血圧136/80 mmHg。心音と呼吸音とに異常を認めない。安静時心電図は正常である。<sup>201</sup>Tl運動負荷心筋血流SPECT(別冊No. 3)を別に示す。

正しいのはどれか。

- a 左室前壁の虚血
- b 心室中隔の虚血
- c 左室下壁の虚血
- d 左室心内膜下の虚血
- e 虚血はみられない

別冊 No. 3
-------------

47 37歳の1回経妊0回経産婦。妊娠35週0日。昨夜から胎動の減少を自覚し来院した。これまでの妊娠経過は順調であった。身長160cm、体重56kg(非妊時52kg)。血圧110/68mmHg。尿検査：蛋白(-)、糖(-)。子宮底長28cm、腹囲85cm。Leopold診察法では、第1頭位であった。胎児心拍は136/分であった。両下肢に浮腫を認めない。超音波検査を行うことにした。

注意して観察すべき項目はどれか。2つ選べ。

- a 羊水量
- b 胎盤の位置
- c 胎児推定体重
- d 子宮壁の厚さ
- e 胎児後頸部浮腫

48 63歳の男性。胸痛と呼吸困難とを主訴に来院した。1か月前から歯痛があったが、そのままにしていた。4日前から頸部の腫れを自覚していた。本日夜間に発熱と胸痛とを自覚し、呼吸困難が次第に増悪したため救急外来を受診した。既往歴に特記すべきことはない。身長165 cm、体重67 kg。体温39.5℃。脈拍112/分、整。血圧100/70 mmHg。呼吸数18/分。SpO<sub>2</sub> 93% (room air)。頸部に発赤腫脹を認め、呼吸は促迫している。血液所見：赤血球420万、Hb 14.1 g/dl、Ht 43%、白血球17,000(桿状核好中球8%、分葉核好中球72%、好酸球1%、好塩基球1%、単球2%、リンパ球16%)、血小板28万。CRP 30 mg/dl。胸部エックス線写真(別冊No. 4A)と胸部造影CT(別冊No. 4B)とを別に示す。気道確保を行い抗菌薬を投与し、集中治療室に入院させた。

治療として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 頸部切開排膿
- b 口蓋扁桃摘出術
- c 胸腔ドレナージ
- d 縦隔搔爬ドレナージ術
- e 上行大動脈人工血管置換術

別冊 No. 4 A、B
-----------------

次の文を読み、49～51の問いに答えよ。

77歳の男性。歩行困難のため搬入された。

**現病歴** : 最近手のしびれを自覚したため1か月前からかかりつけ医でビタミンB<sub>12</sub>を投与されていた。今朝、散歩中に公園のトイレで一時的に意識がもうろうとなり転倒した。すぐに意識は回復したが、右殿部の強い痛みで歩けなくなったために救急車を要請した。日常生活は自立していた。

**既往歴** : 3年前に軽い脳梗塞を発症し、アスピリンを内服している。残存する上肢の麻痺はない。逆流性食道炎、前立腺肥大症および脂質異常症で、プロトンポンプ阻害薬、 $\alpha_1$ 遮断薬およびHMG-CoA還元酵素阻害薬を内服している。

**生活歴** : 無職。要支援1と認定されている。74歳の妻と2人暮らし。

**家族歴** : 父親が肺結核。

**現症** : 意識は清明。体温36.4℃。脈拍88/分、整。血圧122/64 mmHg。呼吸数20/分。SpO<sub>2</sub>96% (鼻カニューラ2 l/分酸素投与下)。眼瞼結膜に異常を認めない。心音と呼吸音とに異常を認めない。心電図に異常を認めない。頭部単純CTでは頭蓋内出血を認めない。

49 この患者の転倒に最も影響したと考えられる薬剤はどれか。

- a  $\alpha_1$ 遮断薬
- b アスピリン
- c ビタミンB<sub>12</sub>
- d プロトンポンプ阻害薬
- e HMG-CoA還元酵素阻害薬

50 その後、右大腿骨頸部骨折と診断し、入院3日目に全身麻酔下で人工骨頭置換術を行った。手術当日は回復室で観察し、翌日、一般病床に移動した。術後は尿道カテーテル留置と左前腕からの持続輸液を行った。術後2日目の夜に患者が不眠を訴えたため睡眠導入薬を投与した。日中は妻が毎日3時間程度来訪していた。術後3日目の深夜、患者の病室から大きな物音がしたために看護師が訪室すると、患者がベッド上に起き上がっており、静脈留置針が前腕から抜けてシーツが血液で汚染されていた。本人に事情を聞いたところ、「銀行にお金を振り込みにいく」と看護師の制止も聞かずに出かけようとした。

術後3日目の深夜の患者の状態はどれか。

- a せん妄
- b 躁状態
- c 解離状態
- d 抑うつ状態
- e パニック発作

51 術後3日目の深夜の患者の状態の誘発因子でないのはどれか。

- a 手術
- b 持続輸液
- c 妻の来訪
- d 睡眠導入薬
- e 病室の移動

次の文を読み、52～54の問いに答えよ。

88歳の女性。食事をとらないことを心配した家族から訪問診療の際に相談を受けた。

**現病歴** : 5年前に Alzheimer 型認知症と診断された。数年前から下肢筋力が低下していた。数か月前からは長男の妻の介助だけでは車椅子乗車も不可能となり、ほとんど臥床している状態となった。通院が困難なため訪問看護と訪問診療が開始となった。長男の妻によれば「最近、食事をとらないことが多く、義歯をはめると嫌がり、むせることも多い」という。

**既往歴** : 高血圧症のため内服加療中。

**生活歴** : 夫は5年前に死亡。長男夫婦と同居。主な介護者は長男の妻である。要介護4。1日1回の訪問介護と、週に3回のデイサービスを利用している。排泄にはオムツを使用している。食事は家族の介助で摂取している。入浴はデイサービスを利用している。

**家族歴** : 特記すべきことはない。

**現症** : 身長145 cm、体重30 kg (1か月前の体重は32 kgであった)。体温35.8℃。脈拍56/分、整。血圧92/70 mmHg。呼吸数12/分。SpO<sub>2</sub> 97% (room air)。皮膚はやや乾燥している。眼瞼結膜に異常を認めない。眼球結膜に黄染を認めない。口腔粘膜に異常を認めない。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。心尖部にⅡ/Ⅵ度の汎収縮期雑音を聴取する。呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。四肢に軽度の浮腫を認める。

**検査所見** : 血液所見：赤血球 368 万、Hb 11.9 g/dl、Ht 38%、白血球 5,300、血小板 12 万。血液生化学所見：血糖 90 mg/dl、総蛋白 5.9 g/dl、アルブミン 2.9 g/dl、尿素窒素 25 mg/dl、クレアチニン 0.9 mg/dl、総コレステロール 186 mg/dl、トリグリセリド 70 mg/dl、総ビリルビン 0.7 mg/dl、AST 20 IU/l、ALT 12 IU/l、ALP 273 IU/l(基準 115～359)、 $\gamma$ -GTP 25 IU/l(基準 8～50)、CK 28 IU/l(基準 30～140)、Na 131 mEq/l、K 3.2 mEq/l、Cl 97 mEq/l。

52 最初に行うべきなのはどれか。2つ選べ。

- a 頭部 CT
- b 腹部 CT
- c 上部消化管造影
- d 歯科医への診察依頼
- e 耳鼻科医への診察依頼

53 訪問診療の1週間後、同居する長男とその妻に嘔吐と下痢とが出現し急性胃腸炎と診断された。翌日、患者にも嘔吐と下痢とが認められた。

適切な対応はどれか。

- a 抗菌薬を投与する。
- b ワクチン接種を指示する。
- c 水分摂取を中止するように指示する。
- d デイサービスを休むように指示する。
- e 長男とその妻に患者と接しないように指示する。

54 患者の下痢は1週間で軽快したものの、下痢を契機に食欲は更に低下していった。認知症の進行のため患者の希望は聴取不可能であったが、家族と相談して自宅療養を続ける方針となった。

この患者で必要性が低いのはどれか。

- a 褥瘡の予防
- b 訪問診療の継続
- c 訪問看護の継続
- d 訪問介護の継続
- e 降圧薬の経口投与の継続

次の文を読み、55～57の問いに答えよ。

68歳の男性。血痰を主訴に来院した。

**現病歴** : 3か月前から咳嗽があり、時々血痰も出現していた。最近血痰の回数が増加したため来院した。

**既往歴** : 55歳時に胆石症で手術。

**生活歴** : 中華料理店に50年間勤務。喫煙は20本/日を48年間。飲酒は日本酒5合/日を40年間。

**家族歴** : 特記すべきことはない。

**現症** : 意識は清明。身長173cm、体重77kg。体温36.6℃。脈拍64/分、整。血圧134/82mmHg。呼吸数18/分。SpO<sub>2</sub>93%(room air)。頸部リンパ節を触知しない。心音に異常を認めないが、呼吸音は右上前胸部で減弱している。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。

**検査所見** : 血液所見：赤血球468万、Hb13.9g/dl、Ht42%、白血球8,800(桿状核好中球20%、分葉核好中球45%、好酸球1%、好塩基球1%、単球6%、リンパ球27%)、血小板15万。血液生化学所見：血糖130mg/dl、HbA1c(NGSP)7.4%(基準4.6～6.2)、総蛋白7.5g/dl、アルブミン3.9g/dl、尿素窒素12mg/dl、クレアチニン0.6mg/dl、尿酸6.9mg/dl、総コレステロール246mg/dl、トリグリセリド190mg/dl、総ビリルビン0.9mg/dl、AST35IU/l、ALT28IU/l、LD198IU/l(基準176～353)、ALP264IU/l(基準115～359)、 $\gamma$ -GTP50IU/l(基準8～50)、アミラーゼ98IU/l(基準37～160)、CK42IU/l(基準30～140)。CEA3.5ng/ml(基準5以下)、SCC9.7ng/ml(基準1.5以下)。CRP1.5mg/dl。心電図に異常を認めない。胸部エックス線写真(別冊No. 5A)と胸部造影CT(別冊No. 5B)とを別に示す。

別冊 No. 5 A、B
-----------------

- 55 患者に対する説明で適切なのはどれか。
- a 「右肋骨に病変があります」
  - b 「右肺の血管が詰まっています」
  - c 「右胸の中に水がたまっています」
  - d 「右肺の中に膿がたまっています」
  - e 「右肺の太い気管支が詰まっています」
- 56 診断の過程でまず必要なのはどれか。
- a 胸腔穿刺
  - b 胸腔鏡検査
  - c 肺動脈造影
  - d 気管支鏡検査
  - e CT ガイド下肺生検
- 57 この疾患のリスクファクターはどれか。
- a 喫煙
  - b 糖尿病
  - c 動脈硬化
  - d 脂質異常症
  - e アルコール多飲

次の文を読み、58～60の問いに答えよ。

57歳の男性。便潜血検査で異常を指摘され精査のため来院した。

**現病歴** : 50歳時に大腸ポリープで内視鏡的切除術を受けた。その後、特に症状を認めないためそのままにしていた。先日、同僚が大腸癌で手術を受けたため、自分も癌ではないかと気になり自宅近くの診療所を受診した。尿検査、血液検査および腹部超音波検査で異常はなく、便潜血検査で陽性を指摘され受診した。

**既往歴** : 28歳時に急性虫垂炎で手術。

**生活歴** : 喫煙は20本/日を25年間。飲酒はビール350ml/日を35年間。2年前から禁煙、禁酒している。

**家族歴** : 父親が大腸癌のため89歳で死亡。

**現症** : 身長165cm、体重67kg。体温36.6℃。脈拍72/分、整。血圧130/84mmHg。呼吸数14/分。右下腹部に軽度の圧痛と手術後の瘢痕とを認める。筋性防御と反跳痛とを認めない。腫瘤を触知しない。

**検査所見** : 血液検査：赤血球420万、Hb13.4g/dl、Ht42%、白血球8,200、血小板28万。血液生化学所見：総蛋白7.2g/dl、アルブミン3.8g/dl、総コレステロール230mg/dl、AST36IU/l、ALT36IU/l。CRP0.03mg/dl。これまでの臨床経過と既往歴から下部消化管内視鏡検査を行った。下行結腸の内視鏡像(別冊No.6)を別に示す。

別冊

No. 6

58 診断はどれか。

- a 潰瘍性大腸炎
- b 虚血性大腸炎
- c 進行大腸癌
- d 大腸憩室
- e 大腸ポリープ

59 適切な治療はどれか。

- a 開腹大腸切除術
- b クリップング
- c 内視鏡的切除術
- d 腹腔鏡下大腸切除術
- e メサラジン(5-ASA 製剤)の投与

60 患者から「この病気が日本で増えているとおっしゃいましたが、その原因は何ですか」と質問があった。

適切な回答はどれか。

- a 「慢性炎症とされています」
- b 「免疫不全とされています」
- c 「ウイルス感染とされています」
- d 「精神的ストレスとされています」
- e 「欧米化した食事習慣とされています」

61 55歳の男性。職場の定期健康診断の後、減量指導を受けるため、職場の医務室を訪れた。身長165 cm、体重70 kg。健康診断では肥満以外に特記すべき所見を指摘されなかった。仕事は事務作業で、勤務中はほとんどの時間を机に向かって過ごしている。通勤には自家用車を使っている。勤務の都合で運動する時間を確保するのが難しいため、現在の身体活動レベルのまま、BMI(Body Mass Index)が22となる体重を目標に減量することにした。55歳の男性の基礎代謝基準値は21.5 kcal/kg/日である。また、推定エネルギー必要量と基礎代謝量の比は、身体活動レベルがⅠ(低い)なら1.50、Ⅱ(ふつう)なら1.75、Ⅲ(高い)なら2.00である。

この受診者に提示する一日の推定エネルギー必要量(kcal)を求めるための計算式はどれか。

- a  $22 \times 21.5 \times 1.50$
- b  $22 \times 21.5 \times 1.75$
- c  $22 \times 21.5 \times 2.00$
- d  $70 \times 21.5 \times 1.50$
- e  $70 \times 21.5 \times 1.75$
- f  $70 \times 21.5 \times 2.00$
- g  $22 \times 1.65 \times 1.65 \times 21.5 \times 1.50$
- h  $22 \times 1.65 \times 1.65 \times 21.5 \times 1.75$
- i  $22 \times 1.65 \times 1.65 \times 21.5 \times 2.00$

62 調査開始時に肺癌に罹患していなかった 10 万人をその時点の喫煙状況で 2 つのグループに分けた。調査開始後 5 年間の肺癌罹患の有無を調べた結果を以下に示す。

(単位：人)

調査開始時点 の喫煙状況	調査開始時点の人数	調査期間中に肺癌に 罹患した人数
喫煙者	40,000	408
非喫煙者	60,000	72
計	100,000	480

喫煙による肺癌罹患の相対危険度を求めよ。

解答：① . ②

- |   |   |
|---|---|
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |





